様式1

令和８年度　学校評価表

学校教育目標	自立・協働・創造　～静まるときは整然と　はじけるときは思い切り～
a ミッション	小中連携教育の充実による自立性・協働性の育成
a ビジョン	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することのできる生徒の育成

尾道市立高西中学校

評価計画					自己評価						学校関係者評価				改善計画
行動目標	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	総合評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
静まるときは整然と　はじけるときは思い切り	学力の向上	主体的な学びの実現	①個別最適な学び ・逆向き単元構想図･指導案･「学びの羅針盤」の作成 ・「選択肢」と「自己決定」のある授業づくり ・特別支援教育の考え方を活かした授業改善 ②協働的な学び ・生徒理解に基づく学習集団づくり ・学びを深める協働学習の設定 ⇒単元内自由進度学習の実施 ⇒単元内自由進度学習の考え方を活かした日々の授業改善 ③「いきかたナビゲーション（『いきナビ』）」の実施 ・キャリア・ログ「学びの地図」の活用 ・「なりたい自分」に近づくために、理想とするロールモデルとの出会いの設定（キャリア講演会） ・総合的な学習の時間と関連したキャリア教育の推進	①生徒アンケート「授業では、受け身にならず、自立的に自分から進んで学習に取り組んでいます」における肯定的評価 【R7：78%】	80%	79%		98%	B	B	○特別支援教育の考え方や生徒の実態把握に基づいた授業展開と自由進度学習の実施 今年度も授業者全員による自由進度学習を計画している。1学期は3回の研究授業を行った。授業づくりにおいては、各授業者任せではなく、授業づくりチームを編成し、計画的・組織的に授業づくりを行った。また、東京学芸大学　佐野亮子先生にもオンラインによるご指導をいただき、より専門的な視点で教材研究を進めることができた。「現状維持は後退」の考えのもと、昨年度までの実践の課題を踏まえ、ブラッシュアップできるよう校内研修を積み重ねてきた。1年生は肯定的評価が76.1%、2年生は78.5%、3年生は83.9%であった。1学期において2、3年生は1年生の比べて自由進度学習の実施教科が多いことも肯定的評価が若干高くなった要因ではないかと考える。教科授業に留まらず、体育大会、縦割り掃除など行事や日々の生活においても自立的に活動できる機会を増やしたことも成果につながったと考える。	3			・生徒ファーストの取組の中で、自立的に自分から進んで学習に取り組んでいる事は、とても良い事だと思います。「仲間と共に学ぶ価値」や「他者から学ぶ姿勢」が着実に定着しているようなので、引き続き主体的な学びの実現に向けてご指導をよろしくお願いします。 ・学力調査については、とても頑張ってるようなので、引き続きよろしくお願いします。 ・「学びの地図」については、目指すべきゴールの姿を共有する事が出来たということなので、引き続き取り組みをお願い致します。 ・何れの項目も、目標値には達してはいないが、概ね近い数値となっている。まだ中間報告報告なので、これからの先生方の努力を期待する。 「主体的な学びの実現」という短期経営目標の中で、目標値に届かないB評価が多く見受けられたということは目標値自体の見直しも必要なのかもしれないとは思いました。 そんな中でも、体育大会等で子どもたちが見せてくれた主体的な行動、自己表現、また協働による仲間とともに力を尽くす姿は去年にも増して、とても素晴らしく、印象的でした。 その陰には、先生たちによる子どもたちを信じ、子どもたちに託す強さがあったからこそと思っており、自由進度学習の最たるものを見せていただいたと思っています。 ・学校経営するうえで、どうしても「子どもたちの学力」という部分は切り離せないものがあるのも承知しています。保護者にとっても気になるところです。 しかしながら、学力よりもやはり子どもたち一人ひとりが元気にのびのびと日々を楽しく、快活に過ごせる場所であれば、より嬉しく思います。 学校は校舎だけでは学校になれません。そこに過ごす、子どもたちはもちろん、先生たちも日々、前向きに自分らしくいられる場所として、高西中が存在してほしいなと願います。	今年度も、自由進度学習に授業者全員が挑戦し、主体的な学びの実現を目指している。1学期には、各学年2～3教科で実施することができた。2学期以降も継続的に取り組むことで、生徒一人一人が自立的に学ぶ素地を作っていきたい。また、自由進度学習の学習環境をはじめとした内容についても、校内研修を積み重ねる中でブラッシュアップしていきたい。特に、今年度も「チーム」による教材研究や教材準備に力を入れている。授業者が一人で授業づくりに取り組むのではなく、授業者を中心としてチームを編成し、チームで授業づくりを進めることで、ベテランや若手がそれぞれの持ち味や強みを発揮することができるよう組織的に研究を進めていきたい。また、自由進度学習のみに留まるのではなく、日々の授業においても自由進度学習の考え方を活かした授業を展開していく必要がある。具体的には、単元全体を見通した授業づくり、見方・考え方を働かせる工夫、「選択肢」と「自己決定」を取り入れた授業を展開などである。また、高校入試を見据え、どの授業においても、基礎・基本の徹底を図れるよう繰り返し学習することや確認する面を大切にして取組を進めていきたい。 学期始めの全校学活を通して「学びの地図」の作成はするが、なかなか学期途中に意識することができていないため、学期の半ばで確認する時間を設けたい。常に一人ひとりが、自分の目標と向き合い、今の自分を分析し、課題を見つけ、設定した目標に向けて努力を積み重ねることのできる環境をつくる必要がある。
	生徒指導（支援）の充実	お互いの個性を認め合える集団の実現	①生徒にとっての安心・安全な居場所づくりとなるような挨拶が溢れる学校 ・お互いを支え合う集団づくりによる学級経営の充実 「学級力向上プロジェクト」による学級のカリマネ 「教師による生徒理解」 「肯定的評価・フィードバック」 ・自己肯定感の涵養 「アセスと学級力アンケートによる生徒支援」 ・SSR「ほっとルーム」の活用 「相談する力」の育成 「自分の強みを知り生かす力」の育成 ②学校行事や生徒会活動等をはじめとした「挑戦の機会」の充実と「感動体験」の共有 ・生徒が主体となる自治的活動の推進 「リーダーを中心とした集団づくりとフォロワーの育成」 「生徒の笑顔、元気、自信を引き出す仕掛け」 ⇒単元内自由進度学習の考えを活かした行事の実現 ・問題の発見と共有から始まるプロセスを大切にした取組 「学級力向上プロジェクトの推進」 「各学級の状況に応じた学級活動の実施」	①生徒アンケート「自分たちの学級は、安心して生活できる学級です」における肯定的評価 【R7：93%】 ②各行事への生徒満足度（肯定的回答） 【R7：97%】	90% 90%	88% 93%		97% 103%	B A	B	○安心・安全な居場所づくりに向けた取組の継続と充実 各学校行事への取組において、お互いを支え合う集団づくりに向けて取組を継続することができた。学級力アンケートの「自分たちの学級は、安心して生活できる学級です」における肯定的評価は、88.8%で多くの生徒が自分の学級に居場所があると感じられていることがわかる。しかし、11.2%の生徒が学級内に居場所があると感じられていない生徒がいる。今回、学級力向上プロジェクトにおいて、アンケートの否定的な意見に注目し、学級の課題の改善に向けて何ができるか学級内で話し合い活動を行うことができた。2学期は、学級集団に不安感を抱いている生徒に目を向け、個への声かけを十分に行うと同時に、学級の取組を通して、自己を認め合う風土の醸成を図りたい。 ○不登校傾向のある生徒への個に応じた対応 今年度も「ほっとルーム」では、教室に入ることが難しい生徒に対して、個に応じた対応を、ほっとルーム担当、学級担任、学年担当で協議しながら進めることができた。今年度から給食がはじまり、教室の生徒とのつながりの機会をつくることもできた。今後はさらに、ほっとルームの生徒、ほっとルームに来ることができていない生徒も含め、教室に入ることが難しい生徒と、教員だけでなくクラスメイトがつながる機会を増やしていきたい。 ○生徒が主体となる自治的活動の推進 今年度から単元内自由進度学習の考えを活かし、行事の取組段階から自治的に行うことで、生徒は達成感を感じることができたと考える。リーダーを中心に、各団の課題を見つめ、それを改善するために話し合いをすることで、互いに協力しながら活動する力が育まれた。上級生は行事で培った経験を活かして、その後の学習活動に取り組む様子がみられ、その姿をみて学んだ下級生もさらに主体的に行動しようとする姿が見られた。体育大会のあとには、自ら疑問を持って学習しだり、クラスの話し合い活動で積極的に意見を出す姿も増えた。 ○学級経営のさらなる充実 各学級が作成した学級経営計画をもとに、それぞれの学級の強みを活かした学級経営を進めることができた。しかし、アンケートの回答から、所属学級において不安な思いを抱えている生徒が一定数いることも分かった。今後は、否定的な回答をしている生徒、そして学校に来れていない生徒に個別な支援、声掛けをするとともに、「集団」の力で学級の課題、クラスメイトの困り感に向き合うことのできる集団づくりに取り組むことが必要であると考える。	3			・安心安全な居場所づくりに向けた取組の継続と充実が図れているようなので、引き続きご指導をお願いします。 ・SSR「ほっとルーム」についても、個に応じた対応が出来ているようなので、引き続きよろしくお願いします。また、クラスメイトにつながる機会を増やして行きたいとの事なので、そちらも是非お願いします。 ・体育大会は参観させていただきましたが、生徒同志が協働して助け合い、みんな生き生きとして、楽しく競技・演技ができていました。とてもすばらしい体育大会でした。 ・概ね目標値は達成している。各行事への生徒の自主的な取り組みにより、達成感、満足度は高い数値であるのは、生徒全員で取り組みをさせている先生方の努力による成果と考える。 ・結果と課題の説明にも書いてありますが、11.2%もの子どもたちが安心、安全な学級ではないと思っているということで、数字を人数に表すと「50人」もの子どもたちとなります。11.2%だと少なく感じるかもしれませんが、50人と聞くととても多く感じませんでしょうか。 昨今、理想論として、「誰一人取り残さない」「子どもたちの居場所づくり」という表現が多くなっていますが、この50人の子どもたちに「何をしていくべきか」をより具体的に提示いただきたいと思いました。 ・先に記述した通り、体育大会は圧巻そのものでした。子どもたちがここまで全力で表現できる場所を作っていただき、感謝申し上げます。	不登校傾向のある生徒への個に応じた対応については、教員と生徒がつながるだけでなく、生徒同士がつながる機会をつくることが必要である。「わたしには仲間がいる」「困ったときに話をできる友達がいる」「学校に行くと友達に会える」と全ての生徒が学校に来たいと思える環境が重要である。クラスメイトとつながること、学級への所属意識を持ち続けることができること、これらを各担任が意識していくことができるよう取り組んでいきたい。 各学級の教室にも複数人、教室の居心地が良くないと感じている生徒がおり、早急に各担任が対応をすることが必要である。アンケートなど子どもの声を丁寧に受け取り、教室での子どもたちの表情を敏感に読み取り、「全ての生徒が安心できる」学級経営の充実をさらに図っていきたい。
	信頼される学校づくり	学校全体でベクトルを揃えた学校運営の実現	①信頼される学校 ・子供に対する教育的愛情と教育に対する使命感をもち、専門性を発揮しながら組織の一員として学校教育目標達成のための取組 ②学校全体として教育の質を高めるワークスタイル ・業務の見直しとスリム化による時間捻出による授業づくりの充実と質の向上	①『学校の働き方アンケート』において、「日々の業務の中で充実感を得られている」と回答している教職員の割合 【R7：82.1%】 ②『学校の働き方アンケート』において、「教職員間で業務の手助けなど、互いに頼みやすい雰囲気がある」と回答している教職員の割合 【R7：89.3%】	90%	① 83.3 % ② 93.3 % **平均 88.3 %**		98%	B	B	① 昨年度より1.2%肯定的評価が高くなっている。しかし16.7%（5名）が充実感を得られていないと回答している。日々の業務に対して多忙感を強く感じていると考えられる。教職員と生徒が目指す方向が同じになるように引き続き、組織で意識統一しながら取り組んでいく。 ② 目標値を3.3%上回った。様々な事への対応等への取組で、主任主事を中心に進捗状況の把握を行い、声掛け等を行うなど組織での取組が肯定的評価の要因と考える。引き続き、行事への取組など先を見通した時間割の工夫や業務のスリム化に取り組んでいき、教育の質を高めていく。	3			・学校運営の充実についても、努力がうかがえました。まだ2学期が始まったばかりですが、引き続き努力をお願いします。 ・概ね目標値は達成している。新任、転任の先生方にとっては、高西中学校の環境、雰囲気に慣れるまでには、ある程度の時間は必要と考える。特に新任の先生方のサポートには、配慮頂きながら、職員間の信頼関係を、築けるように学校運営をして頂きたい。 ・例年、近しい数字が出ていると思います。 打開策は実際にあるのか気になるところです。 多忙感が少しでも和らぐように学校運営の工夫を重ねていただき、先生たちの負担も減ることを願っています。 先生たちも一人の人間なので、人によっては合う合わないが出てくるかもしれません。仕事そのものの合う合わないもあるかもしれません。 まずはお一人ずつと向き合うことからスタートしてもらえたらと思います。 先生も笑顔で子どもたちと接することが出来る毎日になるように切に願っています。	・引き続き、組織での取組と意識統一に取り組んでいく。目指す生徒の姿を確認しながら取組をすすめていく。 ・主任主事を中心に組織的な取組を進めることで、職員間のコミュニケーションを取ることにつなげ、より互いに頼みやすい関係にしていく。

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。